

中学校第2学年美術科学習指導案

1、題材名

14歳の私の境界 ～境界のボックスアート～

2、題材の目標

(1) 美術科としての目標

○ボックスアートについて、「箱の活かし方」や「色彩、線、かたち」、「素材（画材）」などを意識しながら、そのテーマを効果的に表現するための構想を練り、表現方法を工夫する。

(2) 汎用的スキル

○身の回りに起きている出来事やこれまでの経験などから「境界」について考え、境界を生み出すものや人の意識との関係について探る。（メタ認知力）

(3) 態度・価値

○友だちの作品を鑑賞し、「境界」への視野を広げるとともに、表現方法の多様性に触れる。（他者に対する受容・共感・敬意）

3、生徒の実態

本題材を実施するのは中学校2年生である。この学年は14歳となる年であり、立志の節目に位置する時期である。「大人」と「子ども」の狭間に置かれるとともに、自分のアイデンティティと社会との間で思い揺らぐ成長過程におかれている生徒たちが多く見受けられる。自身が抱えている感覚への価値を立ち止まれる機会を設けていきたい。また、そのような時期だからこそ、社会と自身との接点として、多くの人に精通するような感覚を敏感に働かせられるのではないだろうか。アートとの関わりとして、社会に対する自己主張としての発声の場に活かしていきたいと考えている。

4、題材について

①教科から見た特性

この題材のテーマは「境界」である。何かと何かを分断するものや状況、また、それに関わる人々の意識も含め、生徒が感じられている「境界」を作品制作によって探る。ここではボックスアートの手法を扱う。箱という媒介は、平面と立体、内と外を兼ね備えた空間表現が可能である。そして、箱その物自体が空間を遮り、「境界」を作って存在する。ボックスアートの手法を用いることで、生徒の発想のイメージを引き出しやすくするのではないかと考えた。箱は、生徒各自が用意したものであり、箱の形態によっても生み出される作品は様々である。その形態をいかに活かしていくのかも工夫のかけるところである。また、素材・画材への意識の働きかけとして、材料の選択肢を意識させていきたい。制作においては「箱の活かし方」を工夫するとともに、イメージを引き出す「色彩、線、かたち」、「素材（画材）」にも着目し、そのテーマを効果的に表現するための構想を練り、表現方法を探らせていきたい。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

この題材のテーマは「境界」である。何かと何かを分断するものや状況。また、それに関わる人々の意識も含め、生徒が感じられている「境界」を探る。それぞれに感じられる「境界」とは、立場や経験、またその時によって異なり、その「境界」の存在は刻々と変化が起きることである。この日常の中での変化があるからこそ、その瞬間に抱く感覚への価値が高まる。そして、変化の連続が存在することによって普遍性を持つテーマとなりうる。ここに、生徒のリアリティーを基とすることと、長期的に心に留めやすい「学び問い続け」得る発問をとしての可能性を思い、制作のテーマとして設定することとした

5、指導計画と資質・能力を育成する主な手立て（全11時間 本時1／11時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・自分の日常生活の中にある「境界」に意識を傾ける。 ・制作の主題を探る。	○メタ認知力	○身近なテーマの設定 ○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定
第2次 (9時間)	ボックスアートにおいて、「箱の活かし方」「色彩、線、かたち」「素材（画材）」の工夫等を意識しながら、制作の構想を練り、表現方法を探り制作する。	○感性・表現・創造の力	○他者との学び合いの設定

第3次 (1時間)	自分や仲間の作品鑑賞をし、「境界」への視野を広げるとともに、表現方法の多様性に触れる。	○他者に対する受容・共感・敬意	○他者との学び合いの設定 ○可視化ツールの用意
--------------	---	-----------------	----------------------------

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

自分の日常の中にどのような「境界」を感じているのかに意識を傾けるとともに、自分以外の他者はどんなところに「境界」を感じているのかを知り、視野を広げる。またこれから制作する作品へのテーマを探る。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て◆評価
導入 15分	○身の回りにある「境界」を考える ・14歳は大人？子ども？「大人」と「子ども」の境界とは？ →交通運賃の大人と小人／独立して生活できるか ／化粧をするかどうか・・・ ・「恋愛」と「友達」の境界は？ →ドキドキするかどうか／相手を意識してしまうかどうか ／自分をよく見せたいと思うかどうか・・・ ・「パブリック」と「プライベート」の境界とは？ →制服を着脱／トイレの個室の中か外か ／家からの最寄り駅に着くかどうか・・・ Q. 今のあなたの身の回りにどのような「境界」がありますか？	◇生徒それぞれに持つ素直な感情や見方を共有できる場の設定（身近なテーマの設定、多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：他者に対する受容・共感・敬意）
展開 30分	○あなたの身の回りにある「境界」をあげてみよう。 ワークシートに出来るだけ多く記入していく。 例）・コンタクトレンズをしているかどうかとの境界 （緊張感かリラックスか） ・東京駅の京葉線に向かう歩く歩道の上りと下りとの境界 （休日を楽しみに行くか、仕事に向かうか） ・土曜の夜と日曜日の夜との境界 （これから寝坊できるか、一週間が始まるのか） ・家族の電話の声と普段家で話しているときとの声の境界 （表向きの接し方か、ありのままか） ・コンビニエンスストアのソフトドリンクの棚とアルコールドリンクの棚との境界 （中学生が冷蔵庫の扉を開けやすいか、開けにくい） ○5人グループでの共有 ・各グループにおいてそれぞれの境界への視点を共有する ○全体での共有	◇日常と自分の意識の動きを再確認できる場面の設定 ◇何気ない物事にも他者が同じように感じていることへの共感が持てる場面の設定。また、場面や経験、立場によってさまざまな「境界」が感じられることへの再認識できる。（身近なテーマの設定、多様な視点から考える必要のあるテーマの設定、他者との学び合いの設定：他者に対する受容・共感・敬意） ◆自分自身が感じていることについて意識を働かせ認識することができる。 （ワークシート） ◆考えを共有し、意見に対して日常を見つめ直し、深めたり広げたりしている。
結末 5分	○次回への促し ・日常生活の中であなたの感じる「境界」を見つけてくる ・作品に使う箱を用意する	◇自分が生きる日常のなかに表現し得る価値ある視点が存在することへの働きかけ ◆本授業を踏まえて、日常の場面を見返し「境界」の視点を挙げてみる。 （ワークシート）